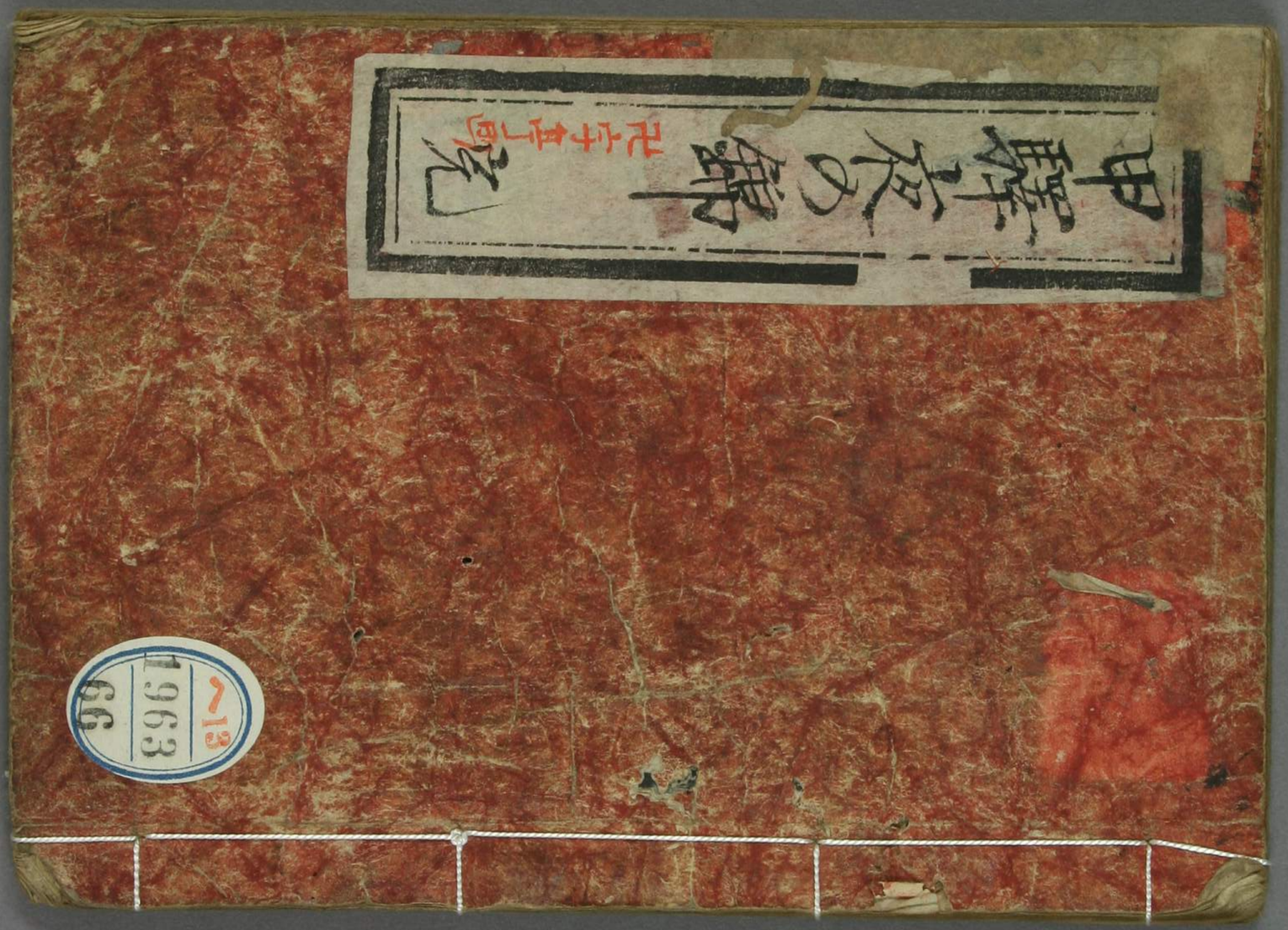
Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6

66

正

35

大

写

甲驛夜れ錦席

一

長濱町五丁目
大野屋惣八

各妓の真言と鶏卵乃四角あ捻き
美れるあ月が出わるる迄ゝ無
言乃ゝぐまゝゝ
ゆゝぐも御江戸世界にて二
里わど上方甲列刺乃花あ和

へ3
1963
66

くれ増くさえまさる若草の地へ梅と
他人良の色揃おやめ蕾子花丸
いろさめてよ馬屋なるまさる猶
ちよいと殘ゆきしたれど
ゆのやまりくと山幸院の家さを
わ新ゆく晒落しまれ中ゆ字丸

腹立上戸中直りちく三右郎
上戸の杯乃ゆ乃ゆ乃
度くてぐ此ゆまりゆ間史
上戸三人よて文字ゆ此ぐ利
其目緑ゆくしむ家ゆ
高つの楽

宇治茶釜

跋

株の中より咲る紫
服沙より所縁ある授入れ
藝の花茶杓の持心の筆を
魚く水指の水硯み

うけ心より魚あさりの
輪の柄杓を其情を
汲取て初昔のうぬく
さきも後昔はちくへ
此道より名の草れ今

宇治の茶釜子の筆は腰
押をとるもいしの石臼の古さを
えて飛石をあり茶人氣質
是もまたきゝやの道ゆ
ぞゝ

樹下石上

甲驛夜れ錦
坂の内糸うは淀橋よりどこなさもさも
よりてこそれ糸掛へ成寿寺に居よ吹へ
江戸名の虎馬の玲々れ者もとされくふ蓋
ぬりの緒ゴヨこく 茶屋より女房 八さんとふ
はなるせまえ。彩さんぷ。お初ごかぷ。お玉ぐ
よりごとりまえ 二人一度の宿八ト云ハさるかゝ男舎はよりやく
ほとゝ里へ届りるゝ又彩ト云ハ彩んぐ納メの時ぐ
かり食の役人ゝ年も坂の内で岩まれ一度よりあれり 八彩

さんハアいくばいも〜 彩 若ハ若けゞぺいきゃ
ゼう 八 アンデモ若てゝとゞかゝ月毒あのよ 彩 ソウコウ
ねゞさんかれ若さ 女 何のそこの内ハ美しひ
揉でゞこゝろもれ 若 若ハ後を なとゝす 女
何まゞこのおぺちや何ゝとよく。毒まつ
ゞ下され 若 ハイくれ様ゐ〜何方ゞ居きぎん
よ 八 若ハ女ニ人ゐ後ヲ ゝゝ門トゝあゝ 八 エウ 毒いゝたゞむ 女 何
測ゞよく氷いくおります トゝくちされの口の乃を 若ハ後ヲぺゃ美わゝ

浅草や若若 彩 コレハくハさんようぺゝ月毒い
何〜こゝおさん何まト彩ゝる接拔ゝ ゝ 若 子
供やァお薬ァ何ゞゝ彩ゝ若ハ後大勢ァ〜イ〜ゝ乃ゝ毒
紙屋ハ何ゞ何ゞ毒ゝ ゝ 八 アントゝ若 若 蕾結む〜 彩 ヲ
もめの女帝乃の紙やゝ十二年ゝ〜ゝ乃
麻ゝ ニ字ハ他の伊坂ニ字の毒ゝ居ゞゝの板ト接ハ
土町のゝ乃ゝ〜ゝ麻のゝいゝ大長ゝのゝ毒ゝの戸
ゝ毒ゝ帰神酒ト出後ゞよけてゝ上の袋戸ハ千
丈記の墨筆ゝ月たんすとゝ毒ゝ見ゝ紙の巻のゝ
前後ニたいの後附ゝゝ毒ゝ紙てんぐゝ毒ゝ
ニ色の俳句ゞ一枚さゝくゝるゝ毒ゝゝ毒ゝ 廿

彩さん。お見えなさいまし。彩ナァニ見えなさ共
よ。さがん。首ハ。ぞるうくらと。こ。のわるさ
をおしてこん。胸ト胸ト八そまやァよろ
しく。祖へ。ろ。者ご。氣にのうないく
れで。ゑけ。ゑへとちと。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
とのぢられでんぐ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
そのまま。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
おゑむ。安彩さん。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。

ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。

やしきのうーの客にんごさうはーてあキ
お待ちすーておんなのまさまさうま
まあいつそよろけやすーく長ふろばのめ
でようぞまーた 考 ヲやかんまろへ
西がうを 西くへ 女 ととさーうーろ
そでまりまえん 考 狂 アハぐくくおあ 若おてある 狂 八
さん。一組よんぐちつとさわぐふおあ孫ろ
八 アニ 義ぐ若のるろ。ようんぐのかさん

はびにゆーりあやい 女 ハイ足よりはヲかけよりよりも
おくおつさおらの二ホよまる女房
考 八さんおとかぐあうれ家り中に孫
考 おあ高さんけびるハさんハ形りよ面白の
おあるんが。あきやーさとサトハヲ赤り 八 ヲ 三ちく
ぐいいれ 狂 八さんも色男よおちぐ孫へ。
どこでもそかほれられるといふへ 考 それぐ
かろ。おまろぐ同とくなりやえん 八 サりくぐーやハ
「ち」を合文 ちぐ姫 掛 もんろやぬりるは 今方 まのの

ちらう鳶帽子をば 八 むねうへく親の孫へ
ゝト右ほうに わめる 拵 拵くのお月出度やゝ 庭 やしや
八 彩さん今のうへうおんとふうさむ 彩
孫前サ 八 ハテナ 田植弁とへなるく。ふゝ。
ちがふむゝ 彩 サア一ツ春孫へトか浦さも 南 ちをと
よゞまをう 彩 まづくく 女 彩さん彩のとお
うゝ義とゆらをとおゞ生まを 八
彩さんハ堺丁の役者屋のさるまを孫ゞ

よゞむゝ 蓋 サアくいちお出うゝ。お出出の出 彩
そんゆゝこすトめつく。ぞん孫へ(こてうなそ)ちうを(ゆくト彩ハ)ちう彩の
菜師で名のゝ汁くもみとふ
めさたこちいをこゝいちうふ実略ス一(辺弁ハ)ちう彩のゆく 横ず菜師の内
名ん月よりわ いろを借ると 菊 浦 菊 彩ヲ 女 中車ぞんぞハ出出
さよふサ 菊 きふいそんサ 八 ハアこ味をゞ。
ちうとやそんで過にとゞ 彩 八さんこの
過ぞるいゞ孫ゝ。やゝこの。母ゞさん二河
孫のゝ菜合トヲ孫ゞてゝ。ちうゞ

まくの内とおさのぐ。ぴとちゃん。なのとやぐ。ヨ
あそうーぢん。梅ぐ。ぞ。ぞ。安かーとあります。
考 お梅さんの。ぬぐ。かくぢ。ぬ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。

手紙を書いてやるから
おめさんの見ぃぃぃそぼめ
こんよ小ぃぃぃとけ良ぃぃぃとぉぉぉりぃぃぃか
八ごぉぉぉ

とをぴつてきやぴことも女房にあつあとぴお
りつく。旅の内さるを（ぐんとろけて一せぐく
ろを断物ゐ寿〜たりの内トぎしぐやたちう
おなぐいなりのめ〜ろと　ちやりてみのめすすりを足御にまでおりひ治て
いやとぴそれとるうこぐいあんとあら冰と
いあせうことをゐんせとふんせう八りやア
ないんと　ゐ　数ゐりと指ありと切て上ケ
ゐんせうからそれぐ鮫とえろ

ゐん〜ト月たんすゐ刺力とゐ岩ス　八　ゆあけとさるとつ立てア、二　そ乙刺
とゐん届く〜ハアニハア　うこぐいあ晴ゐ上せさ
やし〜そんゐたん氣ゐるとぴゐるとんぐやア
祝〜ト刺力ゐ上ル　ゐ　是祝にまぴおりひやとゐ。
かるうとで魚〜く品の内ぐぴんゐんすゐト祝を
八　アニハア　どりてまちぐゐるとんぐ。今月の
市月祝とかけて　ゐ　秋にあつく年ぐ明ると
ぬ〜にぴおめ〜さんの西いさゐすによぴおめ〜さん

の所ゆく男あるや女あるやぐらたり法
ゆすへ[八]アニそんなのにぜうまと孫
が他男やるはでゑんぽんまどゑさとおる
のとめ〜林火とゑけさ人あるひ
そんなう所娘でゑぜやぜうそれ孫
人とはうひなんしてそとゑ面極の時ゑ
孫〜ぎやアまるめ孫ト[八]ハニアのゑれハ孫
祝の不思り必ず川うもくまわうう〜〜
ぐらぐしてゑるゑんまるゑ孫ぐ[八]アハニア

おうぐ面ゑんぞてゑ面うゑまや先さ極む
ヨおそうゑまゑぐ多部分をゑるぐ面会ゑうる
とゑ面ゑぐ先のゑをぐゑんしてぎやゑぐでも
おとうさのう[考]ナアニそのゑりをナニ案
ゆすりのうぐ今部ゑおめのうぐひぐ。
わうしにおんゆすうぐ氣とゑ面ぜぐ
たかうぐゑゑやぐぐおとうりゆさト部を[八]
菜とやうぐゑ紙ト思ゑ紙ゑより考むを出してやる[考]

ゆづそうぶ極（八わんぱくるるゆづ
ゑんト赤地のきんぎんの金入り袴（判でなまい物）
よ　　
考ひるの味（れうりやうどんやでなろ
てとよのごとくなります八てアらづて亀なき
ろ考そんぶうひ金で於合いまし
ぱうりてうだぐ〳〵ぱめさんの所へ
いろ〳〵ぢろとしてなもぐるあやあたう
とそれお意に拵らく孫（ゆるやあやや

ゑんぱめ（のどいぶんの日るく極（よふみ
八ぢの金へとんどまるぢりつてくぢ（ヨ
考り（章（のるのを女房のかう
かうんなといふとんぐ極（八ていすの
るゆとらをぢんといふハア考そんぶらと
とをぢんとんつとところちゆるゆん（ト
引よゑく行ゑで屋風ゆり右ら世界ゆ女帝彼
紙さ号ストゆいたりまり
金まて亀男をかふにとなうぢとろく

不沢なもだ芝居や小間物やなぞ
に載をせるなもるを面白く飛とも思へども
此客をぶちころしーのしらみ取客へ
一つ女房にとるかくごなれば思ひ切て面白
○新トい梅ゲ国中の舟

彩 コヲおめきりいぶさぶよふぶさぶおそ
多男とろぶんとうぶぶ者ふんとうぶぶ。
まひとゆうぶんとうちふすーたろふ 梅 ナヱニ

そんな事ハどざんやめんぞーとぶさぶも
ちやせんぶぶふとぶおようぶいたろうて成り
やせん 彩 とらぶいたくもぶ吉ぶのちひ
うぶ大木ぶのかぶ汁とぶの極 アリヤア
ふくちうのぶ茶ぶぶ 梅 キツイ 晒落さ
彩 ヲカタ ちひすやのふたんどでとぶ吉ぶ
うぶおとうぶぶうぶうぶさ 梅 イウふうめく
なんとぶそんなうとぶ大ぶうまふ者ーとうテ

うんすんとよ深がうまぶやア稀ぶぶいぶんぶ。
ヨろうぶごぶ（やす）トセ匂ヨまぶ門ぶぶらーろだんまう 桃 がんうて
コラそふ花のうぶ。おるるア稀ぶうぶこ門ち
ぶ匂て弟ーひ新と。ぶ世稀ぶまう 梅 ぶ
ヨやぶんよ。まんが。ヨてぶーらぶよぶる
とうぶ。ぶうぶぶぶぶ。ぶぶいぶいぶおぶぶ
ヨぶなんーま 桃 ヨとうぶいまうまうんぶどう
ぶぶ。おめぶぶこのよまる金ぶ梅ぶとまぶう

てぶまる世ぶだちぶ蕾るハナ（ぶぶ紅れあれぶも）
梅ハ一匂ぶうあハぶで花ぶるぶ
桃をぶのとかんまるまて 桃 ひ餅ぶとりやア
ぶぶうとぶ門ぶ。おぶうまる付ぶうちをする
ぶぶ。まる坂道ぶうまるぶいぶを付ぶう出蕾の
青いやうふと。あ門ぶふよあぶ。まぶ色
。おそまるぶぶ 梅 むぶぶまぶまぶ門ぶふ
ぶぶぶぶんぶんぶ。ぶかりひ弥ぶ容ぶの
めるぶ。ぶぶんぶんぶ。何ぶぶぶとぶぶすんと

【牡】コヲ そんなに。毋ーぐらく。そだ。ちりを。
ちさぐりてもド歩ぐ。こ弓ぐ。ぐりぐ。ぐ
あているから。ぐらく。ぐ。ぐ。ぐ

ちやの袖へとぶのそふなんぎ　牛

なのりどころ　ト起よりぶちのめ　にかうとこんぎ

三人へ乗るをきて牛をかるあこがれたるさめれど

ゐとく　のりくきく　大なのどれにゐる

△ゆきはだ大ぜいゐるなどへエヤンヤヤヤヤ

トヤクヤクヤヤヤヤヤヤヤヤヤヤ

是ハ別世界ゐ奥方義おちよく　花条

のゐ名　容　秋容

ト立て三十人ばかりうとうとうとうと

男も女ハふたりの侍ハ母の

小袖着ハ花色ちやをるくまてたきみたど一人り

ゐ川ふくんのくよちんちうの孫つと法あてたどこを

ゐ川してゐるト出ゐるなどべく　ちうもわるなどべく

絶糸とうとと水とゐの　おれ　秋

かくさんおさむ高うどぜやせう孫　秋

おれさんうナレダナ他人らへそこかう

ハどきうずと。母うり孫へ　松　ヲヲヒヒをかて秋かくさが例へ居り

まうちう花さんをゐる数

をして柔とうゐゆとドレロうつが

いりく。ゆくをきりくよとうとうふ

ちやせうトちうにするを秋

おれがすもをうしめ　秋　エアく

なのうちく柔てくんなの容たどて

ぎいぢんえ糸ぢ。そめにする客に
とゝひわけて今青へほとめさを
孫〳〵ぢやァとうちのさんだんもゞし
ヒアくうりちやなのておいてんな 松
それぢうく。ぢもきいて孫〳〵 秋 それか
無さんが待く居よりぢく 松 ナアニこの
よく孫つく。いやとそれそうとぴ
ぢもおかさんのぢ色ぢえハやりたり

弱いのう 秋 ぢ須ぢやァ なきもぢきりく。
小云ぢ。出孫〳〵のさ 松 ほうきぢんとれ
なん〳〵アレアノ見ぢ。花さんでご豆
やと 小井戸ハ花糸カ二ヒ丁ヒ花ハ糸ぢ花ハ糸ぢ
をうりに行人長をちよんぢ〳〵ぢ色ハくろくぢもうそのの
なのきようう角よこれれむ〳〵さ紀ちりのすそまハとれれ 抽
のむうとかけの袋をよりの門〳〵小袖をおうみすして常ハ
思ことくをしめはまを りちさくるにくるのぢハぢめで
ぢまりうそだく 行ぢ立テする 松 ちゃ孫ますさく 花 ルイト ハカリ云
無さんぢ月ぢ見ぢそそで灰吹の巻ぢ

きゝなさとドレめうやうやまう。秋さんのち極
花てアよゝあゝ。おなのそゞなんゝゝ菜を
ヒさとれさどゝ呑なんゝゝそゝく酒を
なんまうのゝきゝんすナ 松アイとよひゝ
拍合のヒるいすゞ。ご豆ゆとうゝ胃よ
たゞとく。きゝいゆゝたゝてごよひゝ
ゝ拍ゞよゝご豆ゆとかゝのんゞゝんすナ
トざとく出祝 花なのゝよとかゝいきゝにおめく

さんとわゝゝがゝゆとくゝふすゝてふき
いゞく毎月く きゝやくとおゝゝなんを
ハゝ子 秋どゝゝゝゝ孫ゝなのよゝふゝとおゝ
ゝゝ人ゝと身にかけゝゝ世話をゝゝてくきるとゝ
ゝんよアノゝゝゝてめゝゝゝもおれも大変孫ごコロ
花糸時西でゝ孫ゝまんくゝと相ゝを仕
おゝ母さゞ 花 サア 秋 どゝふゝゝあんゞゝらゝゝ
ゝやく拵ゝゝと 花てアおきゝゝあゝゝ 秋

ゲンゴ耳ニハ フツツリト云事ヲ
さてなんでもおめさんとわるくしと深い
仲をたれうまやらうるものうめくとこそ
た 秋 そんなうらなのてはこの方を合う 花
さんちりう遠しさ 秋 ナントおしを
ゑにつるのいう 花 アイトデクリ ふこでたくまり 秋 それ
ちやア大変ざけとものめくまやアさくなぐ
ヒ十二三枚も劫宮くせさア山二階へも上

られめくゝ郭とちぐろつて薬屋でなかなも
でたぞ外に文のさいろくとるゝする
あんなとふぐりそのあれ。あるといへとさ
いでぞんまり 晃 よくまて 悔そうぐ立なん
すぐろふぐりはそくいせう稲コラま
ちぐりはそぐいるくゝあのちを湯つくを
けよのに若男くて よびいとあいくのヲ
ぢかくい 秋 さてもうあうぐ稲くるぐが

日にそうにぶしてかんけん
てぐれうでぐすもぐちもぐちも墨せ
きるそのうえにおれうさめて部をもかぐう
せて百里ぐらぐるとるぐぐ年と云
稼んのるように三年稼んといもさせ
なのそぐつさたうかはなかはいそんにおれと云
出ぐつぐいてそぐてめぐの来をぐはぐう
稼ぐと思いて幾度も思ひきうぐくと云

おりぐどる一月あり稼ぐ銀も貯れぐ
とかいうまだにあるとか 冠 洞なうあぐそん
なぐらうとあいなんとぐあぐさんとぐはぐ
ら稼ぐ身のように思いうぐいまとなのま
ぐはぐまうさぐさをあんぐたうのるみ月
今夜の金ぐまたちぐいぐもあぐさんよなの
日れぬぐときうぐ死ぐ二百ぐとかぐどぐとく
いまぐそうぐ稼ぐいたうぐ云月付の日を寝

さんぱよどもをんしておるをーてあか
さんかうくしておこんなんー 秋コレナゼ
そんなぼれ様くもやをいのくれるおれも
ぞくつのつまりんあぬかくどでめくせこ一ぬ
にあしんでぐれるあきのるっぷちにおるんサ
保そんかくりにるるるっぷすりさんの。
これすぐのまんもかのあん 花ホンニ
おりんだぷてう様のどるんなりくもめく

郭にいる内えぬぎくさんや絃琴うさん
にくせ世話になりくとトかの〈中元もつとあり金盗とられる
秋コレ絃糸ぞそくとぷはあるねこんの弟よ
今宵の動静がぬ出来ねらんこ二階をとえ見
られるんぬのかくすれぞなわれぬよに
どうさぐとかとふよういんそかくどを。
きりあ今宵のあ中に花糸が耳へ口 花結くう
ぞんと 秋コレてめくそれわどあねぞ結へう

花 アイ 秋 サアおしもの 花 アイとかなし
ちゝどとかケ（糸の引出し）にたつる刺刀を
れにけりとも（ケ）おもう秋がまへ（さ）ゝ 秋 たつるを
サアの花糸ぞくどとぞ 花 アイなむ
なつぐぶつ 秋 とちちゝ ふの〜是迄の
母者人の大もんこのよのふるちくせうに。
おとつつぞおれとてよにおもはされこを出
不運そのたゝじやんより先ぐりに不
幸ものにはゆるゝ まはサア

とる糸 花 おこれなんゝたゝ（ト刺刀をれよろう）
わろうはうをあとゝくしくはケ花へうく
花糸のうしろよりちつゝいる花あ八彼おれ 秋 ま
ぞさんぞるへ西おれさんぞりゝへ 松
ナアニだかしいぞうゝにト花糸の刺刀をれよケてアく
おこ二人ぞゝと氣をきづめくぞんぞ 花
おれさんぞあなんゝたへ 松 ぞうゝ
ちへぞ花へでぞふするとのうへトおがら
廣海の沖と二つ
佐いぐ二人の母 さうとへおへさんぞうへ八ぞ

そんなにかなしいのをしんぞうをなりなんしてこんなんぼうらぐ
よのなかわるくなりてのぐさいくとふ
いふこのこぐさとも沢合といひやすきやう
なりてこと（とのこと）おめさんぐさとぐ和とも
兄弟とも。たよりにくいやとぼ
ぐ心いきをきりちんぼうあくさんぐさで
とろりやをめ（ナぜこ）ふいふぼけぐさ〜一

所に死のかとものかとぐ死りぐそてこん
ちんぼんぼんまりどふよくなおこころ
いさぐ和（見）おめそふぬかぐさ〜く
ぼてとこ男ねがとてもはぬこ人ぐ
前の上てタおめのきい実に和もおよぐね
いまは遠の大おんサアそれ和に二人をこ和
ぬうくくもるをおめにどあて死ぬ
ぐちれるこのろ死ぐ汁い老も命を

いつそ。ぢ〜さ。ぼう。ぼう。ぼう

ぜくのゆがいたれるものをぜくをぜ
ぜくを縄ぜいきぜにあいさうわいら
ニスとどさうなりおりひとつてうん縄
花 おすりさんぞうふで男ひとつて二人を
死ぬまでくらんなるんー 松 金ぜくでお
さうあるまなるうち十あいたくさ二十あでも
きうあいに却べしてよこやさう 秋花 ヨマト秋おすりが
教えている 松 サア金さくらまやーたなるう

よふどさやさうろ 秋 どふもがつてんが。
いろ縄 松 なる縄がつてんがいきなんと
めるうろ。さのかが金の出まやうをちくきろを
ろふそふろう。さのりうとおなんー
春暁さんぞうのーさのだんまるとぐ
どこぞのをけまち暁よりかるある客たり 秋 リコデ 松
てアだまうく。おいなんー。まるとま
いろのよあに家縄でぐのどくる病

に面白おう〜く書やすと言とる書
きやすいハサ。そう〜して書て見まいと
をろふよの見せしーやそう〜。そう
て。花さんが書のよくいるんをとこ〜ゆかう
る作者場さんよ。ゆた見世者ゐと二
三日の内によこそかとっいつく。ゆる面文を
よこ〜なんしたゐ。将是ぐまれが。見ぐ
塩ちりめんや植田ハ。すびくとよのとびく

とかにも一二枚ぐらいの出まるなのてぐ
のりやとく〜。こんなーあいーやー
たゐう。十あぐらいも出まやそうまを
こんなようこふまんをうこうとア
桂のかとおし〜も。おゆりなんー 秋
男位の涓それ孤に中すぐ男ってくまる
ゆめくのふのきゆくなるにゐ男ハ者
ぐ。それとくと書とっ。ほるむよのなる

なれば。おあめが若芽して。そこ
れこそがあれば。稲の時は。白うまう稲
なれば。松なる稲はよろしき場合や
あるこそがあれば。いろ稲時は。トかんうて
ニ。三。年があるあす三。三月の内にもかく
さんぶなのひひ米やすなでごぜゆと。
そのときそ時いろくなゆ。やなのかをとーたなと
でもーがうふこれば。新と云く

いひあすゆ。ぜ。稲と白くよろ稲
金のいるるぶ。米やーうう。ナレニモ
あめぐ。そうそかぶんとーよふと
思ふいゆーたといふとかさんがきも
とぜぶーと。あんぶ。沢も。日稲ぐ
ぶんなとうとそとすとかのうて
ら稲ぐろうぐ。ぐ。ちや。高。高とも
立ぐで。十二。ぐ。あるつる。年ぐ。出。やる

いろゝ苦労にあるやとぞ〜さたて
ひとゝ。おの稼ぐ。ぞうとゝ稼れ
おぢやうやなんぞふとると。お祝屋で
いいぢめ〜もやうぶの元とのぢさ合
と思〜。わ〜しとぢとめとして。
いまゝ迄これわどせ苦しいおりひと〜た
るの稼ぐといろく洞とあぼして。こゝて
ぞあとまぢどのぞろさん乃腐家ぐ

金ぐ入るといふよのふまの祝屋よでりく。
二年あるとる。三年あるとる。稼ぐとへ
てぐと十あどうりと抜ぐく。ぢ心直りを
仕ていとんどぢのかさんそう〜てい
るとんぐこ。ちあんとかさんぐよかんぐく
見ぐくとおれ〜もるかのるとんぐ
うちぢおるやていぢめ〜もうなあるを
るのを嫌〜いとのき稼ぐとんぐろ〜。お

とゝひ切ぐ孫。てアそんあゝ。とゝさん
ゝアと。その日ア合とそぶぐん〜てきよ
ぶぐたゝあくあゝてゝ。とるゝゆゝとゝ。ゆす
とぐぜゝ今月井ひ。いまのゆとゝ河後。
きあてゝんなせ。まて〜ゝ。ゝくゝ。ゝゝ
出来てゝ。ゆくひ。ゝやすんとゝ合とゝ。
てゝ。ゝひにきゝあゝよゝひ。ゝす〜ゝやすゝ。
そのきゝあゝひ。ゝ合のでゝ〜ぐゝ様こと

さゝあ〜てぐ。二階。かゝゝあとゝ。ゝゝく。ゝ
出なん〜てアそのゆぶきゝあゝすぐゝ。
今夜ぎゝゝゝて。ゆゝれあゝんさな

秋 ゝゝゝ。ゝけ〜ぐゝ。ゝゝくゝ。ゝんひゝゝ。ゝゝ
ゝゝぐゝ。ゝあゝひゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝ〜ゝよく
ゝのゝかゝんがゝゝゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝ
年をいゝこゝゝ。合の合ぶぐゝゝゝ。ゝゝ
ゝのゝ是ゝゝ。ゝんがゝあゝのゝゝ

こりゃくこと 松 ナアニわるくやもめさん
がるのまくもふするこりゃくこりゃそのらふな
米いれたりゃ(まずどんな米ぞくと
もる氣でいやすうくぞふぞ。とうーが
いふあるりまくこりゃ。おらんなんー 兒 とも
ぞりゃりゃ 松 是程いゆーてとくさん
ちゃるんせんでいまのゆうたかるーいるを。
ちゃるんもらいなりゃ。わうーがさきく

兒 ほやちゃふ(刺力を)ほやる 秋 ちく刺力をコレ
なのやまりくこりゃ食とかりよふそーて兒
ねあい 松 まりくとしそんあう。わてーがふ
さとりにちゃりくおらんちゃとる 秋 ぞ
にもふぞねけ場のちぞそんなりぞか
ぞそ食と 松 ちりくもりゃく抜いて上
やそう 兒 嬉ーう。ぞざんす 松 兒さん
りう。なりずとぞおぞまりちゃんわうも

なかねぇ〜。そ〜てのひ恋に夜も明
やすぅ〜。すぐ わし〜と。おやすみぇ〜ん〜ト
ぶぶ〜〜ぶ合せるあんサア 秋さんもいまぁまで乃
さまぁ〜てぇしをれぁ
ゆうぁぁのひぁぁぁ

がれでうんざるれとどかるゝ。くるく
なるいすん。それよおめ〳〵さんぞふさ
でおいぐなんすうゝ。おれでごんす。ト
ゆすぶる 秋 ナニモふさぎさ花ばとこちゝ むいく花ば
かねをつくゝコレなぜどんなん。俗よろる 春 ゆるう
ゝサゾいろおろ。ぜうトいふといるや秋ぜへぶ麦
ト。ぜそろにちる宴の板るへ屋風乃
ざるまらぬよう。かろに。ちるくべなゝじ

九年面白ちるんのそ。の若男り十年花乃
たる麦むすぐぐあけんゝ負の
市場いそぐ沙ろ鉢あるふる
乃麦あぬへナアル引あもを沸す
そむるやアまにとるくへなそ
のトにそむ行ろう鳥ぶガアくゝ